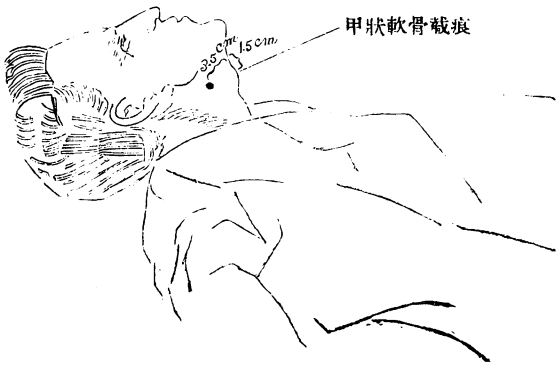
質疑應答

（質問）諸種ノ方法ヲ用ヒテ止血シナイ喀血患者ニ硫酸「アトロピン」〇・〇〇〇五ヲ一回ノ注射量トシ一日一回乃至二回注射ス、此ノ方法ニテ奏效セシ多數ノ實驗例ヲ有セリト云フ望月惇一博士ノ報告アリ、（雜誌名只今記憶セズ）然ルニ日本醫事新報第八十一號横田利邦學士ノ藥理及處方例ノ條下ニ「アトロピン」ノ極メテ特異ナル作用トシテ比較的少量ニテ迷走神經ノ心臟制止絲（副交感神經ニ屬ス）ニ由ツテ支配セラル、心臟內制止裝置ヲ麻痺セシメル爲メニ心悸亢進ヲ起シ脈搏增加シ從ツテ血壓モ亦亢進スルヲ以テ注意ヲ要ストアリ。此ノ比較的少量トハ幾何ノ分量ヲ指スモノナルヤ前記望月惇一博士ノ報告ニ從ツテ喀血患者ニ「アトロピン」ヲ使用セントスル際ニ當ツテ大ニ迷ヒヲ生ズルヲ以テ此點ニ付テ明瞭ナル御指導ヲ願ヒマス、（靜岡一老醫）

（答）硫酸「アトロピン」〇・〇〇〇五許ノ量ヲ一回ノ注射量トシテ喀血ニ應用シ屢〻卓效アルコトハ望月博士說ノ如シ。又タ「アトロピン」ニ依テ血壓亢進スルノ藥理學ニモ間違ナシ、但シ之ニ依テ血壓亢進スル程度ニ至ランコトハ個人ニヨリ異ナルベシト雖モ、通常〇・〇〇〇五許ニテハ來ラズ、從テ望月博士說ノ如ク頑固ナル喀血ノ療法トシテ使用シテ差支ナシト信ズ。（有馬賴吉）

問　喉頭結核ノ對症療法殊ニ鎭痛法ニ就テ御敎示ヲ乞フ　（東京、S、E、生）

答　喉頭結核患者ノ最モ苦痛トスル嚥下痛及ビ喉頭痛ヲ緩解スルニハ、種々ノ療法アレドモ專門學的技術ヲ要セズシテ簡易ニコレヲ行フニハ喉頭內注入法アリ。卽チ喉頭注入器ニ五乃至二〇%「コカイン」溶液及ビ一〇%「メントールオレーフ」油ノ少量ヲ入レテ喉頭內ニ注入スベシ併シ是等ノ藥液ハ一時性鎭痛藥ニシテ永續セズ、比較的持續シテ疼痛ヲ緩解スルニハ、喉頭粘膜內上喉頭神經麻醉法實用セラル、卽チ上喉頭神經內枝ハ甲狀舌骨筋及ビ其靭帶ノ外側ニ於テ此所ヲ貫キテ喉頭內ニ入ル、コノ部ニ注射スレバ喉頭內ノ知覺ヲ麻痺セシムルコトヲ得、其ノ方法ハ（中村博士ニ由ル）



前頸部ノ正中甲狀軟骨截痕部ヨリ上方一・五糎ノ部ヨリ側方三・五乃至四糎進ミ、コノ部ニ針ヲ刺入スルコト約一・五糎ノ深サニ於テ神經ニアタル。」

先ヅ患者ヲ仰臥セシメ頸部ヲ、「アルコホル」ニテ消毒シ、注射液トシテハ、八十五%「アルコホル」ヲ、四十度ニ加溫シテ一竓ヲ注射器ニ入レ、コレヲ前記ノ部分ニ外皮ヨリ直角ニ注射ス。

神經ニ衝突シタルトキハ放散性ノ耳痛ヲ訴フベシ。若シ耳痛ヲ感ゼザルトキハ針ヲ上下左右深淺シテ神經ヲ探ルベシ。

注射時ハ患者ヲシテ嚥下運動、痙攣ヲ起サシメザル樣、注意スベシ。鎭痛持續ハ數日乃至二週ニ亙ル。

（山下龍太郎）